

科目名	英語学Ⅱ	
担当教員	児玉 一宏	
授業の概要	1. 英語学をはじめて学ぶ人を対象に、英語学の基礎的な概念を解説し、英語学的な思考法・分析法を解説する。 2. 英語教員としての教養を深めることができるような授業運営を心がける。 3. 英語学の学びを通して、ことばの不思議さ、ことばについて思索することの面白さを教授することに努める。	
授業の到達目標	1. 英語の構文理論について学習し、構文形成や構文交替(書き換え)の成立について、一定の英語学的な考察ができるようになる。 2. 英語発達史の知見に基づいて、英語の語彙、語法、文法について一定の英語学的な理解ができるようになる。 3. 英語の音声パターン(sound pattern)の基礎を学習し、音韻法則の基本的な仕組み(英語の音法)について一定の理解ができるようになる。	
授業計画	回	内容
	1	オリエンテーション
	2	教養としての英語学
	3	英語学の基礎ー動詞の意味と意味役割
	4	動詞の項構造と意味論
	5	英語構文理論入門ー「構文」の概念について
	6	構文の形成と情報処理ーコンテキストとしての場面・状況の果たす役割
	7	英語の構文交替現象(事例研究)
	8	中間振り返り
	9	英語の成立ー英語発達史
	10	英語本来語と借用語
	11	英語の語彙と音声パターン
	12	英語音韻法則(音法)の基本
	13	英語学研究が英語教育に教えてくれること
	14	学習英文法再考
	15	授業のまとめ
		試験
テキスト・参考書	[テキスト]使用しない。講義資料を配布する。[参考書]授業中に適宜紹介する。	
自学自習についての情報	講義資料と授業時のノートを中心に講義内容の定着を徹底していただきたい。次回の予習事項については授業中に伝える。	
授業の形式	講義と演習	
評価の方法(評価の配点比率と評価の要点)	(1) 最終試験の成績(80%) (2) 課題の提出(20%) 授業時間数の5分の4以上の出席がなければ、成績評価の対象としません。	
その他	受講者の理解度を確認しながら授業を進めるため、進度・講義内容について若干の変更を伴う場合があります。	

科目名	異文化理解	
担当教員	Andrew Obermeier	
授業の概要	一般的な文化の基本的な要素を議論した後、日本と西洋の文化の根本的な違いが紹介する。このような違いを考慮して、異なる文化を理解するための原則、受け入れ可能な行動の規則、コミュニケーションのパターン、対人関係について論じる。最後の部分では、新しい文化に適応し、相互に関連する世界社会に参加するプロセスを扱う。	
授業の到達目標	1. 文化の基本的な要素と、他の文化の人々を理解することとのコミュニケーションにそれらを適用する方法を学びます。 2. 日本と西洋の基本的な文化の違いに影響を与える歴史的、社会的起源を学ぶ。 3. 異文化理解を促進するために不可欠な英語の語彙や表現を学ぶ。	
授業計画	回	内容
	1	はじめに: 文化の基本要素
	2	アメリカとヨーロッパの文化の要素と起源: 自立と地理的移動のパイオニアライフスタイル
	3	日本文化の要素と起源: 米文化の安定した階層
	4	文化について考える: ステレオタイプと一般化。偏見や差別を避け、理解を深める
	5	容認できる行動のための文化的ルール
	6	時間の文化的視点
	7	個人とグループ
	8	異なる文化における上下関係
	9	異文化における口頭のコミュニケーション: 主張と自己暴露の度合い
	10	異文化間での非言語コミュニケーション
	11	異なる文化における家族構造: 上下関係、ジェンダーの役割構造、群動態
	12	サブカルチャー: 社会における文化のダイナミクス
	13	新しい文化への調整
	14	文化的統合のプロセス
	15	つながっている世界の異文化理解、まとめ
		試験
テキスト・参考書	Goodmacher, G., Kajiura, A. (2005) This is culture: Developing communication skills for an intercultural world. Tokyo: Nan' Un-Do. ISBN: 4-523-17489-X	
自学自習についての情報	英語での講義を理解する為、講師と学生同士のやり取りが不可欠です。学生は、講義に積極的に反応することが期待されますし、この観点からも評価されます。	
授業の形式	英語での講義	
評価の方法(評価の配点比率と評価の要点)	クイズ: 40%; 授業への参加度: 20%; 期末試験: 40% 授業時間数の5分の4以上の出席がなければ、成績評価の対象としません。	
その他	特記事項なし	

科目名	英米文学	
担当教員	奥村 真紀	
授業の概要	本授業では、英語で書かれた文学作品の読み方を学び、その背景にある歴史や文化についての理解を深める。また詩、戯曲、小説のそれぞれに使われている英語表現を味わい、楽しめるようにする。さらに、英語で書かれた文学作品が投げかける様々な問題について多角的に検証し、「行間を読み」、文学作品を読むことの楽しさを知る。	
授業の到達目標	1. 文学作品において使用されている様々な英語表現を学び、それを使えるようにする。 2. 文学作品に現れる文化や社会などの背景知識を理解する。 3. 英米文学の代表的な作品を知り、その読み方を学ぶ。	
授業計画	回	内容
	1	イントロダクション: 文学作品を読むということ
	2	歴史と文学(1) 黎明期からシェイクスピアまで
	3	歴史と文学(2) 市民社会と文学
	4	歴史と文学(3) 小説の誕生から現代まで
	5	児童文学の歴史
	6	英語の詩の読み方
	7	Nursery Rhymeと英語の詩
	8	絵本のリズム
	9	ルイス・キャロルの世界
	10	『アリス』シリーズと言葉あそび
	11	推理小説と社会(1)「ボヘミア王の醜聞」
	12	推理小説と社会(2)「まだらのひも」
	13	文学作品の行間を読む(1) 戯曲
	14	文学作品の行間を読む(2) 短編小説
	15	全体のまとめ
		試験
テキスト・参考書	テキスト: <i>English through Literature</i> (『文学で学ぶ英語リーディング』) 斉藤兆史・中村哲子著 研究社 (ISBN: 978-4327421854) 参考書: 『よくわかるイギリスの文学』 清宮倫子、清宮協子著 南雲堂 (ISBN: 978-4523177098)	
自学自習についての情報	第一回目の講義で、授業で扱う作品について指示をするので、日本語で入手して読んでおくこと。必要な原文はプリントで配布するので、授業までに読み込むこと。	
授業形式	講義と演習	
評価の方法(評価の配点比率と評価の要点)	授業内での小レポート、ワークショップ等(20%)、期末試験(80%) 授業時間数の5分の4以上の出席がなければ、成績評価の対象としません。	
その他	特記事項なし	